

広島を賑わす
まちづくり

お弁当たち 12

い〜ね！ おおあさ
NPO法人INE OASA

菜種油で山菜を天ぷらに

休耕田を菜の花畑にし、廃食油を回収して再燃料化し、町内を走るバスに使用する「菜の花プロジェクト」に全国で初めて住民主導で取組み、大きな話題となりました。現在では、この取組は全国に広がっています。

休耕田、転作田を利用した菜の花の作付から、廃食油を利用したBDF（バイオディーゼル燃料）まで、調査・研究と実践に取り組んでいます。

菜の花ECOプロジェクトの菜の花から、菜種油で山菜を天ぷらにしてみました。この取組が進んでいけば菜の花畑は次世代の油田、も夢じゃない。

菜の花プロジェクトに 取り組む地域の食料色々

お弁当には大朝のほかにプロジェクトに取り組んでいる、滋賀県、青森県の食材ということ、で稚アユ（滋賀県東近江市）の唐揚げ、ホタテ（青森県横浜町）のバター焼き、ついでにリンゴ（青森）を入れてみました。

ベントや講演会の企画・運営、環境学習の実施や都市と農村の交流など、絆を大切にし、生み出し・育てる活動に取り組んでいます。

極上の銀シャリ、おおあさ びゅあ菜米、は最高！

菜の花を発酵させた有機肥料を使用し、トラクターなどの燃料には植物性燃料を用い、農薬を従来の3分の2に抑え、
“びゅあ菜米”を栽培。企画・販売や情報発信にも取り組んでいます。

これを使ってお弁当に。おおあさ・びゅあ菜米は、平成19年「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」で第3位優良賞を受賞しました。

菜の花の塩漬け、 おひたし、サラダ

菜の花をキーワードに各プロジェクトを連携させ、個々の活動だけでなく、それがつながり合うことにより力と魅力を生み出しています。

そこでお弁当も菜の花を様々な使いました。菜の花の塩漬け、おひたしと菜種油を使ったマヨネーズで連携させた野菜サラダ。

菜の花の塩漬け、おひたしと菜種油を使ったマヨネーズで連携させた野菜サラダ。

菜の花が彩る地産地消と特産品 花の環 ふるさと弁当

菜種油で旬を体感
菜の花畑は次世代油田

菜の花肥料でお米も作る
農業抑えて資源も回る

菜の花が
つなぐ近江、
青森
絆のおかず

菜の花つなぐ味のハーモニー
菜の花つなぐ町のハーモニー

特定非営利活動法人

い〜ね！
INE OASA おおあさ

菜の花を通じた循環型社会づくり。その柱となる取組を食材として、“花の環 ふるさと弁当”として表現しました。もちろん、立派な食材である「菜の花」そのものも、安全・安心、健康、おいしさ、彩りを引き立たせるよう、盛りつけました。

特定非営利活動法人INE OASA
活動分野:まちづくり 環境
発足年:平成13年(2001年)
連絡先:広島県山県郡北広島町大朝2487
HP <http://www.e-jyan.jp/>
Email ine@oasa.jp

INE
OASA

広島を賑わす
まちづくり

弁当たち 13

広島環境サポーター
ネットワーク

自然を愛し、
季節をいち早く感じ、
地球環境を大切にすると、
楽しいエコ弁当
旬の食材を使った
具たくさんのお弁当

5つの部会、山・海・川・ゴミ・国際理解の分野で環境保全活動を行っています。食材はいろいろですがネットワークが織り成すハモニーは、おいしき絶品。地球環境を大切にしたい気持ちがいっぱい詰まったエコ弁当です。

コソコソ地道な調査を続け
命を育む水を守る

海の生き物、水質の
小さな変化見逃しません
牡蠣よく育つ環境に

里山守って 自然を学び
いただくのこ 自然の恵み

広島環境サポーターネットワーク



発足のいきさつ

平成12年7月 現NPO法人「INE OASA」(いぬね おおあさ)の代表、保田哲博さんが、中山間地域が抱える過疎の問題と、大量生産・大量消費の中で出される廃棄物の多さについて解決策は無いかと思案していた所に「菜の花プロジェクト」(滋賀県愛東町、現東近江市)を知り、「甦れ おおあさ」をメインテーマに、空き農地を利用した『資源循環型リサイクルのまち

づくり』に取り組み始めました。住民主体による循環型の地域作りは初めてで、休耕田を菜の花畑にし、廃食油を回収して精製プラントでディーゼルエンジンに使用されるBDF(バイオ・ディーゼル・フューエル)に再燃料化し、町内を走るバスに使用しています。地球温暖化防止に向け、菜の花の栽培を通して二酸化炭素削減やリサイクル、ゴミ減量 新エネルギー問題などに取り組み、地域住民のきずなも

加わって、菜のまちづくりを実践しています。

主な活動としては、「菜の花エコプロジェクト」に加え、小学校の総合的学習の中で、学年に応じて菜の花の植え付けから、収穫・搾油、米作りなど環境学習を交えた「絆プロジェクト」、有機栽培米の「びゅあ菜プロジェクト」の三本柱で展開しています。平成15年「全国過疎地域自立活性化優良事例表彰」平成16年「広島県景観大賞」県知事賞受賞。



「もったいない」を
知らないのは
「もったいない」
わかりやすく
呼びかけます

広島環境サポーターネットワーク
活動分野:環境
発足年:平成7年(1995年)
HP <http://hiroshimakanyonet.com/>
Email info-web@hiroshimakanyonet.com

デザートタイムは心が弾む
同じアジアに暮らす者
環境トークで会話が弾む

メインディッシュは とれたてのシイタケ

広島環境サポーターネットワークは森林、河川、海洋、生活、国際交流の5つの部会に分かれ活動しています。最初に紹介する森林部会では里山の保全や山地の自然観察、太田川の源流に関する学習と里山の整備、植物の観察会をしています。

雲月山の山焼きに参加し、八幡湿原や冠山での植物観察、おの自然の森では「ハッチョウトンボ」に出会い、龍頭峡で滝の音を楽しむなどしています。冬期は、廿日市市の大峯山で森林歩道を作るなどの保全活動を行っています。山の中で出会う様々なシイタケ、エコ弁当には欠かせません。



おいしい水が 弁当を引き立てます

河川部会では平成8年(1996年)より太田川放水路の4箇所です水生生物調査などの定点観

測を年3回しています。底生動物調査や水分析(COD・全リン・全窒素)を行い毎年記録をまとめ冊子にして、環境省や県や市、大学へ報告しています。

干潟ではたくさんの生き物がいっぱい。希少種のハクセンシオマネキに出会った時などは感激！その他、地域を限定してホタルを飼育して放流しています。生命の源である「水」を大切にしています。



海の幸、 マガキもわすれずに

海洋部会では平成10年より元宇品海岸で生き物調査を行い、生物の変化や水質の状況を確認し記録をしています。

最近では、カメノテ、オオヘビガイ、ヒジキなども発見され少しずつきれいな海になっているのが判ります。

弁当に「マイはし」は あたりまえ

生活部会ではゴミやリサイクルといった生活に結びついている問題を中心に活動しています。マイバックやマイはし運動を中心にゴミ減量への取り組みをしています。また、環境イベントでの「環境劇」では、もったいないや自然の大切さをテーマに、市民にわかりやすくエコライフを提言しています。

発足のいきさつ

平成7年12月、広島市環境局主催「広島市環境サポーター養成講座」を修了した人たちが集まって、広島環境サポーターネットワークが発足しました。翌年からは、太田川放水路での環境調査活動を開始し(河川・海洋部会)、機関誌「環境サポーター通信」を発刊。平成9年からは大峯山での森林整備(森林部会)、平成10年には台所から環境を考える生活部会、平成12年からは海外の研修生との交流活動を行う国際交流部会がそれぞれスタートしました。

平成19年12月末現在で、大学生から80代までの会員約600名が登録し、部会に所属して専門的に取り組んでいます。

ネットワーク全体で取り組んでいる事業としては、広島市が

世界の人にも理解を デザートはアジアフルーツ

国際交流部会では広島市を訪れるアジア圏からの研修生の方々との交流を通して「相互理解」を深めています。主に環境問題を柱にごみ問題など各国の行政現場が抱えている課題や取組について意見交換をしています。

主催する、こどもエコクラブ「広島地球ウォッチングクラブ」があります。干潟観察、里山観察などを通じ自然の大切さや地球環境について伝えていきます。

また、公民館や小中学校での総合的学習で、出前環境講座を実施。地域の川での水生生物調査、太田川上流探検、身近な廃材を有効活用するリサイクル工作など、市民レベルでの環境保全活動を行っています。

行政と協働して環境イベントも実施し、楽しく目的意識を持って活動しています。

【受賞履歴】

平成18年(2006年)「ひろしま環境賞」(広島県)
平成18年(2006年)「広島市民表彰」(広島市)
平成19年(2007年)「環境大臣表彰」(環境省)

